



今年度の成果と課題

今年度の成果と課題

今年度も、感染症拡大防止対策を取りながら、中学校区部ごとに「自ら考え行動する子どもの育成」「たくましく学ぶ子どもの育成～主体的に学び、共に学び合い、その学びを実感できる授業づくり～」 「表現力～伝えるから伝わるへ～」をそれぞれ大きな柱として研修を行った。さらに「小中合同部会」においては、陵東中学校区では6部会、陵西中学校区では2部会に分かれ、小中連携を図りながら研修を進めることができた。特に陵南中学校区では、研究協力校の研究テーマを柱に学区全職員で授業研究を中心とした研修を行うことで、効率的な研究組織の在り方について改善を図る取り組みが見られた。また、寒河江中部小学校、西根小学校、高松小学校の公開授業研究会を通して、教育実践の向上に活かせる成果を得ることができた。

《今年度の成果と思われること》

- 1 公開授業研においては、寒河江中部小学校では、『たくましく学び子どもの育成～主体的に学び、共に学び合い、その学びを実感できる授業づくり～』、西根小学校では、『対話力を高め、主体的に学ぶ子どもの育成』、高松小学校では、『主体的に学び、かかわりの中で学びを深める子どもの育成～考え、決め、伝える活動を通して～』をそれぞれ研究主題とし、2年目として進められてきた研究や授業実践を通して学ぶことができた。ICT端末を活用した授業実践やカリキュラムマップに基づいた授業づくり、つけたい力を明確にした授業づくりなどの工夫について、各研究員が互いに学ぶことができた。
また、研究1年次である、三泉小学校、南部小学校、醍醐小学校の3校が、子どもたちの確かな学力の向上に向けて研究を進めてきた。
- 2 今年度の全体研修会では、教育のための科学研究所 主任研究員 菅原 真悟氏より、『「読解力」向上に向けて～RSTを活用した授業革新～』という演題でご講演をいただいた。昨年度、本市の課題として掲げられた「読解力（汎用的な資質・能力）」の育成に向け、今年度4月に市内全中学校の1年生を対象としてリーディングスキルテストを実施した。本講演では、「なぜ、AI/DX時代に読解力が求められるのか」の背景を捉えたうえで、リーディングスキルテスト結果から見える本市の子どもたちの「読解力」の現状、さらには「読解力」を高める授業設計について実践的に学ぶことができ、実りのある研修会となった。
- 3 研修部会では、中学校区ごとに同じ課題について主体的に話し合うことで、その解決の方向性についてそれぞれ深めることができた。また、課題研究部会においては、リーディングスキルテストを活用した授業づくりの実践についてアイデアを出し合い、読解力を育む授業のイメージを共有化し、充実した研修を進めることができた。
- 4 学力対策委員会では、各校のアクションプランを持ち寄り、学力対策について共有することができた。全国学調等の各種学力調査からみえる子どもたちの課題を踏まえ、ICTの活用事例の共有など、各校での指導改善に役立てることができた。

《来年度の課題と思われること》

- 1 一人一台タブレットPC端末を活用した効果的な授業実践について
個別最適な学びと協働的な学びを一体的に推進していくうえで、一人一台タブレットPC端末を活用した授業実践について、さらに研鑽を積む必要がある。教師主導ではなく、児童生徒が主体となったタブレットPC端末の活用や、ICT端末の日常的な利用、ICTの特性を生かした授業観の転換など、教職員に対する研修の場をさらに工夫していく必要がある。
- 2 「読解力（汎用的な資質・能力）」の育成にむけて
令和3年度（昨年度）の全国学力・学習状況調査の結果、本市の児童生徒の「読解力（汎用的な資質・能力）」に課題があることが明らかになっている。今後もリーディングスキルテストを活用した定点観測をもとに、各教科・領域において、汎用的な資質・能力となる「読解力」を育成するための授業改善、指導方法の工夫を進めていく。